



## 数学珍答案集

### ■ 秋山 仁

算数や数学は子どものころから好きだった。でも、怠け者で勉強嫌い、さらに、オッチョコチョイなので、試験ではかなり苦労した。今にして思えば、窮して独創的な珍答案を作ったり、今でこそ笑える早合点もしたものだ。算数や数学に関する失敗談を恥を忍んでここで紹介しよう。ただし、最初のもは小学校の先生から聞いた話だが、可愛いので採録した。

【小学校編】ピッカピカの1年生向けの問題はやさしめの足し算だった。三択問題で、“正しい答えを丸で囲め”と書いてあった。1人の女の子が正解の周りを小さな丸でせっせと囲んでいた。十数題も出題されていたので、汗だくだった。

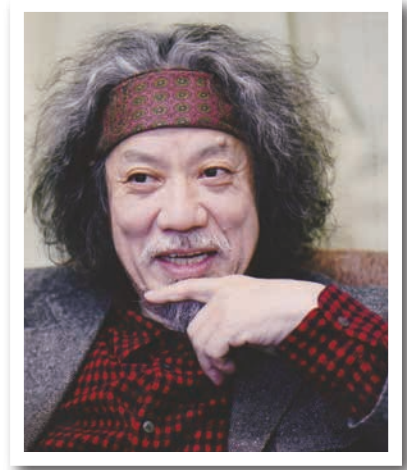
5年のとき、分数の足し算を当てられ、黒板の前に出された。 $\frac{1}{2}$ と $\frac{1}{3}$ を足したら、分母同士、分子同士をそれぞれ足して、 $\frac{2}{5}$ になると思い込んでいたので、そう書いた。先生は私の書いた答の上に大きな×をつけた後、「さっき、通分を教えたばかりなのに、どうしてそんな答になっちゃうのかを説明しなさい」と言われた。「昨日、2打席1安打で、今日、3打席1安打なら、合計5打席2安打じゃあないんですか」と答えた。優しい女の先生は至極感心した様子で、「確かにそういう考え方もあるわね」と言って、黒板の×の上に大きな花丸を書いてくれた。

【中学校編】中学になると連立方程式を習う。連立方程式の解き方の中で代表的なものは、未知数  $x$  か  $y$  のどちらかを一方を消去する消去法のことである。

授業中、隣の可愛い女の子とおしゃべりしていた私を先生は咎め、黒板の前に引っ張り出

■ 秋山 仁

現在、東京理科大学理数教育研究センター長、近代科学資料館長、ヨーロッパ科学院会員、ミシガン大学数学客員研究員、東海大学教育開発研究所所長、文部省教育課程審議会委員などを歴任する。



された。板書してある連立方程式を解くことを命じられた。私は解き方を知らず、2、3分考え込んでいた。すると、先生が助け舟を出してくれた。「君、 $x$ か $y$ のどちらか一方、たとえば $y$ を2つの式から消去しなきゃダメだよ」と。やおら、私は黒板消しで $y$ を消してしまった。【高校生編】授業中、先生の話をつまみ伝や松本清張に没頭していたら、数学の先生がある日、突然怒った。

「お前は授業に参加しようとさえしない。黒板に書いてあることで分からないことはなんでも質問しなきゃダメだ」と青筋を立てている。私はヤバイと思い、「黒板に書いてある10グラム(10g)って何ですか?」と咄嗟に聞いてしまった。「これはログ(log)と言って対数の記号だ。クラスは爆笑の渦と化し、恥ずかしさのあまり、耳から火が出た。

【大学生編】大学に入学したころ、コンピュータはまだとても珍しいものだった。ある日、「コンピュータ室を知らない人は手を挙げなさい」と先生が質問した。それを聞き間違えて、「えーっ、コンピュー体質ってどんな体質ですか?」と聞き返してしまった。

皆様、数学の発想とは意外とこのようなところにあるのかもしれないよ。明日から人と違った角度から物を見ることを試みてください、ひょっとすると新定理を発見できるかもしれません。

